

平成 23 年度岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【9月募集】入学試験問題

講 座	言語情報論
専門科目 2	日本語試験

問題 1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

問 1 下線部 (ア) (イ) (ウ) (エ) を漢字に直しなさい。

問 2 波線部 (オ) (カ) (キ) の意味を書きなさい。

問 3 空欄 A~D には以下の語のいずれかが入る。文章をよく読んで、文意に合う適切な語をそれぞれ選びなさい。

1 ワンワン 2 モー 3 ヒヒーーン 4 ニャー

問 4 下線部(1)「蛙の子は蛙」の意味を説明しなさい。

問 5 下線部(2)について、その理由を、本文中の具体例を挙げながら説明しなさい。

問題 2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

問 1 下線部 1~5 の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問 2 下線部 A~C のカタカナを漢字に直しなさい。

問 3 下線部 b の「そっちのけ」の意味を、例文を挙げながら詳しく説明しなさい。

問 4 下線部 2 の「眩いた」と下線部 4 の「囁いた」は意味が似ているが、どのような点

が共通し、どのような点が違っているか、説明しなさい。

問5 下線部 a の「というより、上京するため確かに東京行きの列車に乗ったのである」が暗示していることはどのようなことか。

問題3 日本語の名詞「白」は、「白い」「白っぽい」「真っ白い」「真っ白だ」のように、様々な形容詞や形容動詞を派生します。「白」以外の色を表す名詞について、同じような事実が見られるかを幅広く検証しなさい。また、そこに見られる傾向を指摘しなさい。

以上

注1：問題1の「次の文章」とは、鈴木孝夫『教養としての言語学』（岩波書店）の28頁～30頁から抜粋したものである。

注2：問題2の「次の文章」とは、宮本輝『二十歳の火影』（講談社文庫）の80頁～82頁から抜粋したものである。